建災防加世田分会災防大会

災害防止へ決意新た

建設業労働災害防止協会県支部加世田分会（上東信義分会長）は15日、南さつま市の市民会館で祈願祭と第30回建設労働災害防止大会を開き、1年間の無事故無災害と交通・労働災害防止を祈願した。

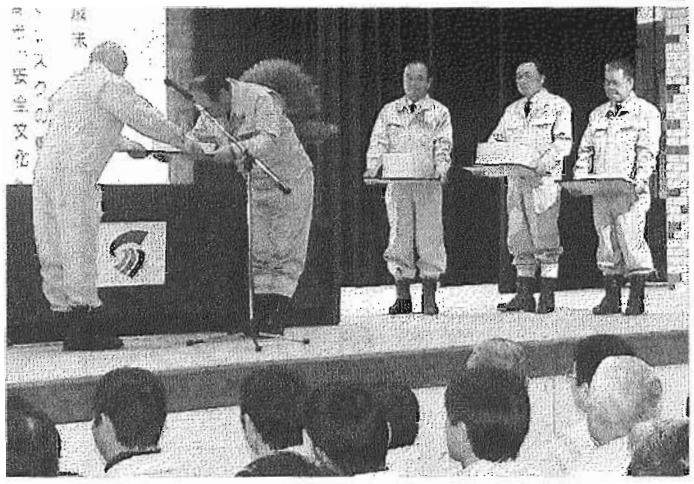
祈願祭では、各代表らが神前に玉ぐしを捧げて、交通・労働災害防止への決意を新たにした。引き続き行われた災防大会では、各賞の表彰状授与・伝達式の後、上東分会長が「四大災害絶滅運動や安全衛生教育運動の推進に努め、19年度こそゼロ災を目指してほしい」と挨拶。

次いで、川原秀男県議、上野新作県議、本坊輝雄県議、中園梅義県加世田土木事務所長、川野信男南さつま市長、玉利栄輝鹿児島監督署長らが「事業主が中心となり全社的な取り組みとして、社員へ意識の徹底を図ってほしい」などと、それぞれ祝辞を述べた。

前園富男労務副委員長の宣言決議の後、大坪副支部長が「年度末であるこの3カ月が、建設業にとって一番労働災害が発生しやすい時期。各自がしっかりと自覚し、安全管理に努めてほしい」と閉会の言葉で締めくくった。

分会長表彰は次の通り。（※カッコ内は年数）

会員無災害会員表彰＝㈱中間組（32年）㈱中間建設（14年）桑畑建設㈱（12年）㈱下迫土木（10年）㈱森組（8年）㈱有木組（8年）森田建設㈱（6年）㈱古市建設（6年）▽2年間無災害現場担当監督努力賞＝永山和義㈱今給黎建設）末廣孝徳（有元建設㈱）渡瀬時則（㈱森組）大園昭博（㈱古市建設）上木原大実（森建設㈱）



各種表彰も行われた災防大会
＝南さつま市の市民会館で

県技術士会、技術研修会

上小鶴氏 港湾づくりで講演

県技術士会（稲田博会長）は13日、鹿児島市のよかセンター鹿児島で19年1月度技術研修会を開き、建設部門会員の上小鶴博氏（県鹿屋土木事務所長）が「地域づくりと港湾とのかかわり」と題し講演を行った。出席した会員35人は、港湾における鹿児島の発展や役割などについて知識を深めた。

上小鶴氏は、港湾の役割や課題などを説明した後、海が引き出した鹿児島は海が一つの原点になっているのではないかと前置きし、鹿児島港における本港区、新港区、鴨池港区、南港地区、木材港区、中央港区の成長過程を、当時の港や港周辺の風景や航空写真などをポインターを使い詳しく解説した。その中で、上小鶴氏は「明治における加納久宜知事の港湾大改修計画が、今日の鹿児島港の発展に大きく寄与しているのではないか」と語った。

そして、今後の〝みなとづくり〟にどう取り組むかは、これからの「地域のかたち」づくりの基本的方向性を見据え、地域ブロックや生活圏域を考える必要があると述べた。

港湾の役割などについて知識を深めた研修会＝鹿児島市のよかセンターで

県蔦土工業連合会安全祈願祭

希望を持てる業界に

祭を開いた。出席した会員らは、向こう1年の無事故無災害と各社のさらなる繁栄を祈願した。

そろいの法被姿で行われた祈願祭では、神前に玉ぐしを捧げるなど事業の安全と会員各社の繁栄を祈願。出席者は、終始引き締まった表情で、労災撲滅へ決意を新たにした。

新年にあたって、今西会長代行は「業界は、適正価格の問題や後継者育成に向けた取り組みなど、課題が山積している。若者が希望を持って働ける

同日は、場所を移して新年会も行われ、会員らは今年1年の展望を語り合うなど、さらなる結束を誓い合った。

記念写真に納まる会員ら
＝鹿児島市の荒田八幡宮で

桑木組道路愛護協力会が奉仕活動

管理区間で道路清掃

㈱桑木組（桑木規行社長）は毎年、創立記念日や直前の日曜日に、県出水土木事務所と同協定を締結。同社がこれまで作業してきた県道出水停車場線の出水駅から春日橋までの区間385mについて日常的な管理と草刈りや植栽の手入れ等の清掃・美化活動を続ける。

掃等の奉仕活動を続ける。

足させた桑木組道路愛護協会で作業を行った。

同事業は、地域や企業等が行う県道の清掃・美化などの奉仕活動を市町村と連携しながら支援し、ボランティア活動の普及啓発と道路を核にした地域環境の保全向上や共生協働による活力ある地域社会づくりが目的。支援対象は一定区間（100m以上）で日常的な管理や年2回以上、清

管理区間には縦50×横70cmの銘板（アルミ製）に管理団体名を記載した高さ1・5mのサインポールを設置、地域にPRする。

出水土木事務所管内では1月11日現在、同社を含む1個人3団体が締結。県内では合わせて25団体が締結、活動を展開している。

【訂正】12日号4面の建設業労働災害防止協会県支部種子島分会災防大会の記事中、安全講話を行ったのは鹿児島労働基準監督署次長の「夏迫昭

県内最大級の圧砕機を導入

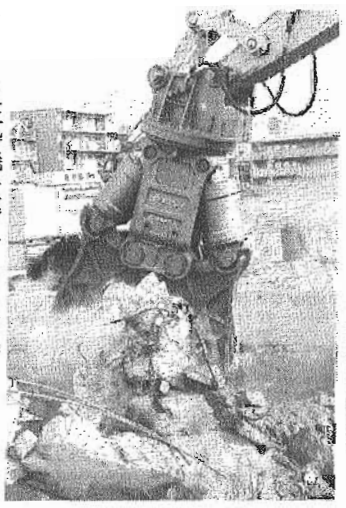
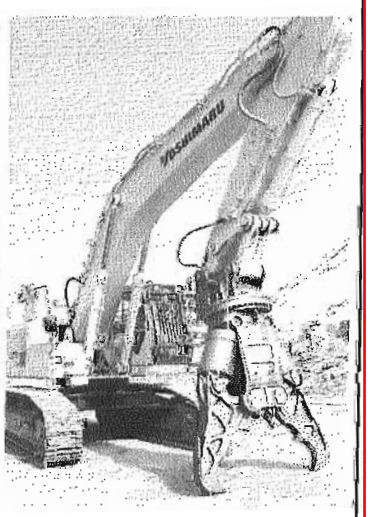
騒音・振動に配慮

吉丸組

㈱吉丸組（吉丸泰生社長、鹿児島市）は15日、鹿児島市上荒田の日本たばこ産業（JT）鹿児島工場跡地の事務所解体現場（RC造地上3階地下1階建て延べ約4900㎡）において、地域住民への騒音軽減などに配慮し、県内最大級の大型コンクリート圧砕機を導入した。

今回導入した大型圧砕機はオカダアイヨン製（TS－W1600V）＝写真＝で総重量は5t。コンクリートの柱や梁、壁などを強力な破砕力と広い開口幅（1600㎜）でスピーディーな圧砕解体が可能である。

工期内の無事故無災害を祈念した後、オペレーターの辻学さんが始動。コンクリートの基礎部分に2本のアームが食い込むと、いとも簡単にコンクリートが砕かれていった。

現場責任者の曽木和哉常務は「工期短縮やコストダウン、二酸化炭素排出量削減などに配慮して導入した。市街地や住宅街での解体において、従来の油圧ブレーカーでは騒音と振動が大問題となっているが、この圧砕機は振動も少なく、短期に作業を終えることで近隣住民の方々への迷惑を大幅に軽減できる」と話す。

また、オカダアイヨン㈱九州営業所の井上裕三さんは「破砕力、開口幅、開閉スピードなどすべてにおいて一級品。時代のニーズにあった機械」と太鼓判を押していた。